ま え が き

ここに、平成23年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修・研究の成果の一端を「研究集録 第37集」として刊行いたしました。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まり、昨年度までに県内各地方に送り出した研修員はのべ479名に上ります。研修員は、長期研修において優れた識見、高い専門性、豊かな人間性を身に付け、和歌山県の教育における指導的役割を担い、本県教育の充実・発展に大きく寄与してきました。

平成20年3月に告示された新学習指導要領が小学校では本年度から全面实施され、中学校では来年度、高等学校でも年次進行により実施されます。その中では、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく行うことが強調されています。さらに教育内容の重点事項として「言語活動の充実」「理数教育の充実」「小学校における外国語活動」などが示されました。こうした中で、研修員は、教員としての資質の向上と見識の涵養に努め、各学校や地域の教育を推進していく実践力を身につけるため、1年間研修に取り組んできました。

本年度は、研修員と当教育センター所員がチームを編成し連携して取り組む「指定研究」、各学校や地域の教育課題を解決するための「課題研究」、教育相談に関する「課題研修」の3つを中心として進めてきました。

研究内容とその成果については、本年1月28日に第2回和歌山教育実践研究大会において発表を行いました。各学校においては、この研究集録とともに、当センター学びの丘のウェブページに掲載している関連資料も併せ、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。これからも長期研修員制度をさらに充実させ、本県教育を発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成24年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所 長 稲 生 淳